

公變類冊全

73
6488



73
6488



目錄

- 一 以上事出入古意何書之奉
- 二 伊豫全振井村之奉
- 三 右田之奉
- 四 伊中全名之村之奉
- 五 皇命之奉
- 六 伊中全上之奉
- 七 右田之奉
- 八 伊中全之奉



- 九 一 右市仕之... 事
- 十 一 右市仕之... 事
- 十一 一 右市仕之... 事
- 十二 一 右市仕之... 事
- 十三 一 右市仕之... 事
- 十四 一 右市仕之... 事
- 十五 一 右市仕之... 事
- 十六 一 右市仕之... 事
- 十七 一 右市仕之... 事

昭和九年
三月十四日
辨末

五斗の瓶丁仕小七事名

肥後国

書向也子不可方何... 此後... 何道... 御朱印也... 何道...

一 新市在... 不油仕... 御朱印也...

お席... 市... 何道... 御朱印也...

何道... 御朱印也... 御朱印也...

一 此... 御朱印也... 御朱印也...

一 此中上は終つたはるなり

但し又ハ此中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中

書面も又ハ但書も何れも是なり

一 此中上は終つたはるなり
但し又ハ此中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中

但し又ハ此中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中

書面も又ハ但書も何れも是なり
但し又ハ此中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中

一 此中上は終つたはるなり
但し又ハ此中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中
中を要らば終つた中を要らば終つた中

下は... 惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...

書... 惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...

惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...

惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...

惣後... 惣後... 惣後... 惣後...
惣後... 惣後... 惣後... 惣後...

書面書式及個書式何の通事と云ふこと

一 出火の... 書面書式... 個書式... 何の通事と云ふこと

書面書式... 個書式... 何の通事と云ふこと

一 新法代官... 他... 教...

... 教... 新法代官... 他... 教...

一 新法代官... 他... 教... 新法代官... 他... 教...

書面可成五兩と云ふ形紙を布に中人改定受取
らざりしは揚子江新成川合司と云ふに之を
伺ふと上は元金五斗と云ふ

一 信年人言書又人言未及出入在床之上言利
ふと云ふと平吉割すは利是年二十日迄厚
中付共上にお清く切言中付換在は
切言同様も厚言中付心あつて云ふと
の仕は七斗と云ふ

書面信年人言書又人言未及中人言利と云ふ
吉割すは利是年二十日迄厚言中付心あつて云ふと

中付共上にお清く切言中付換在は切言同様も厚言中付心あつて云ふと

一 新成川合司の形紙を布に中人改定受取
らざりしは揚子江新成川合司と云ふに之を
伺ふと上は元金五斗と云ふ

書面可成五兩と云ふ形紙を布に中人改定受取
らざりしは揚子江新成川合司と云ふに之を
伺ふと上は元金五斗と云ふ

一 至所可人改定受取書面可成五兩と云ふ形紙を布に中人改定受取
らざりしは揚子江新成川合司と云ふに之を
伺ふと上は元金五斗と云ふ

の... 福... 不中... なる

書... 而... 右... 一

一 教... 及... 書... 亦... 一

一 下... 亦... 一

一 一... 六... 亦... 一

以年任世為美之平之不及自取穀類物也
行應之既少而中上之格下仕之也

但地後以例廢死人之事之也古村之令書之土習
山形市之通之方を以て自取之也之也
居人之也書之也之也

一 秋傳為之也之也之也之也之也之也
あふ封之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

一 秋傳為之也之也之也之也之也之也
あふ封之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

一 秋傳為之也之也之也之也之也之也
あふ封之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

但任人之也書之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

一 秋傳為之也之也之也之也之也之也
あふ封之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

書句云... 但書在... 也

一... 御志中... 評定... 加... 也

書句... 也

右之通... 也

中六日

昔... 也

南... 也

伊豫... 也

伊豫... 也

也

夏者子高故

御役所

久如
次之七

片后
八

白子
八高

四 差上中一札之奉

一年路之抄之果此人師之女承継之人

但中者月之果前近也云云言想身之極不承継也

一 古本抄古之言及抄入下海貴宗物也云

一 古本抄切之請常也云

一 古本抄川也云 抄板

一 古本抄 抄

一 古本抄 抄

一 古本抄又

一 古全三女表
一 古全三女表
一 古全三女表

古全三女表

右全三女表村字向市借十三年長年水引三州師之女
以倒短者果以之有之此也預中一之也如之也
新大者以之全有之難少以之也如之也
也之也難也之也如之也一之也一之也

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

四向

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

古全三女表

新市船之師之如以倒出此山有村役人のわおお
右の邊を更におききしは馬の子は既に在る醫者
存る者も又加改作抱新之支方する學者も亦
海人の船の村役人のお屋敷に領主の命は
山の麓に在る水戸村に役人の官舎がある所
少々の山は今年秋に取られ又水戸の所
にあり古市路のちのちの海道の所あり
古市路のちのちの海道の所あり
古市路のちのちの海道の所あり
古市路のちのちの海道の所あり
古市路のちのちの海道の所あり

右の邊を更におききしは馬の子は既に在る
存る者も又加改作抱新之支方する學者も亦
海人の船の村役人のお屋敷に領主の命は
山の麓に在る水戸村に役人の官舎がある所
少々の山は今年秋に取られ又水戸の所
にあり古市路のちのちの海道の所あり
古市路のちのちの海道の所あり
古市路のちのちの海道の所あり

古市路のちのちの海道の所あり

五月十日

古市路のちのちの海道の所あり

此後村々子ハ方々其日名案可ク其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ

其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ
其方名海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ

方々海を以テ其方名海を以テ其方名海を以テ

古足代衣ききき 兼腕きき 死骸解方し 乃て五経論
兄あしよのせしききき人お年 難言致お果し 月未信紙
お認許をて得し 建礼(道) 大に 難言き 飯知おしきき
信し 許書也 口内 出深 少りき 古同(心)上

百
十月

兼源守五帝

五
名上中一札奉

信書府危難渡村字門台松橋女入米(道)お果中
用事しきき 以得し 兼源村役人おあき 有る 伴以 有連
新有 孫物及んし 兼源中 有る 有る 有る 有る
おんん 中松 用事 兼源 有る 有る 有る 有る 有る
おんん 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る
おんん 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る
おんん 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る

信書府危難渡村
子好孫物也
おんん
おんん

地身蔵示

一 葉本源 務員

一 胤中源本源

一 花也本源

一 尾と源

一 白本源

一 白と源

一 葉と源

古くは新物

古くは新物... 葉と源... 胤中源... 花也本源... 尾と源... 白本源... 白と源... 葉と源

天の如く

葉と源

胤中源

花也本源

尾と源

白本源

光緒二十一年

市西地者一所有信村北西角地也此地係屬...

西角

光緒二十一年

五省... 御選

五省... 御選... 光緒二十一年

市西地者一所有信村北西角地也此地係屬...

西角

市西地者一所有信村北西角地也此地係屬...

去月... 市西地者一所有信村北西角地也...

光緒二十一年

市西地者一所有信村北西角地也...

大正

子

孫

り

せ

大正

孫

子

右之... 大正... 孫... 子... 大正... 孫... 子... 大正... 孫... 子...

左之... 大正... 孫... 子... 大正... 孫... 子... 大正... 孫... 子...

一 倉敷村五郎万太郎此れは元禄三年申三月申旬分付を
所より所末をいふ事申す事候へども在日申す夜宿申
目事申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
已り申す事候へども中申す事候へども海軍部令申す事候
いふ事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
ハ之事申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
いふ事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
入申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候

一 渡村役人此れは元禄三年申三月申旬分付を
川方申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
定便申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候

後申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候

一 倉敷村役人此れは元禄三年申三月申旬分付を
恒事申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
右申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候

一 申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候
申す事候へども海軍部令申す事候へども申し申す事候

右の書は、蘇書也。世に蘇書と云ふは、蘇東坡の書也。蘇東坡、字子瞻、眉山人也。其書、骨力雄健、筆勢豪放、其法、自出心裁、不假他法。其書、有若龍蛇、不可方物。其書、有若雲霧、不可端倪。其書、有若雷霆、不可收斂。其書、有若江海、不可涸竭。其書、有若日月、不可掩蔽。其書、有若星辰、不可殞滅。其書、有若鬼神、不可測度。其書、有若造化、不可思議。其書、有若自然、不可勉强。其書、有若天授、不可求取。其書、有若地生、不可栽培。其書、有若水出、不可壅遏。其書、有若火燃、不可撲滅。其書、有若風吹、不可止息。其書、有若雷轟、不可阻礙。其書、有若電掣、不可閃爍。其書、有若雪飛、不可停頓。其書、有若霜降、不可消滅。其書、有若露凝、不可滴瀝。其書、有若雨降、不可淋漓。其書、有若雪霽、不可殘留。其書、有若霜消、不可遺跡。其書、有若露晞、不可遺痕。其書、有若雨止、不可遺滴。其書、有若雪化、不可遺積。其書、有若霜融、不可遺痕。其書、有若露乾、不可遺痕。其書、有若雨乾、不可遺痕。其書、有若雪化、不可遺積。其書、有若霜融、不可遺痕。其書、有若露乾、不可遺痕。其書、有若雨乾、不可遺痕。

百一

夏若海書部

此書、蘇東坡所書也。其書、骨力雄健、筆勢豪放、其法、自出心裁、不假他法。其書、有若龍蛇、不可方物。其書、有若雲霧、不可端倪。其書、有若雷霆、不可收斂。其書、有若江海、不可涸竭。其書、有若日月、不可掩蔽。其書、有若星辰、不可殞滅。其書、有若鬼神、不可測度。其書、有若造化、不可思議。其書、有若自然、不可勉強。其書、有若天授、不可求取。其書、有若地生、不可栽培。其書、有若水出、不可壅遏。其書、有若火燃、不可撲滅。其書、有若風吹、不可止息。其書、有若雷轟、不可阻礙。其書、有若電掣、不可閃爍。其書、有若雪飛、不可停頓。其書、有若霜降、不可消滅。其書、有若露凝、不可滴瀝。其書、有若雨降、不可淋漓。其書、有若雪霽、不可殘留。其書、有若霜消、不可遺跡。其書、有若露晞、不可遺痕。其書、有若雨止、不可遺滴。其書、有若雪化、不可遺積。其書、有若霜融、不可遺痕。其書、有若露乾、不可遺痕。其書、有若雨乾、不可遺痕。

六丙 百一 一札 一車

此書、蘇東坡所書也。其書、骨力雄健、筆勢豪放、其法、自出心裁、不假他法。其書、有若龍蛇、不可方物。其書、有若雲霧、不可端倪。其書、有若雷霆、不可收斂。其書、有若江海、不可涸竭。其書、有若日月、不可掩蔽。其書、有若星辰、不可殞滅。其書、有若鬼神、不可測度。其書、有若造化、不可思議。其書、有若自然、不可勉強。其書、有若天授、不可求取。其書、有若地生、不可栽培。其書、有若水出、不可壅遏。其書、有若火燃、不可撲滅。其書、有若風吹、不可止息。其書、有若雷轟、不可阻礙。其書、有若電掣、不可閃爍。其書、有若雪飛、不可停頓。其書、有若霜降、不可消滅。其書、有若露凝、不可滴瀝。其書、有若雨降、不可淋漓。其書、有若雪霽、不可殘留。其書、有若霜消、不可遺跡。其書、有若露晞、不可遺痕。其書、有若雨止、不可遺滴。其書、有若雪化、不可遺積。其書、有若霜融、不可遺痕。其書、有若露乾、不可遺痕。其書、有若雨乾、不可遺痕。

夏若海書部

夏若海書部

夏若海書部

夏若海書部

佐中玉流村利中流ら合名を材和四方を存せり
ありいも存せり中流ら合名を材和四方を存せり
佐中玉流村利中流ら合名を材和四方を存せり
ありいも存せり中流ら合名を材和四方を存せり

右の如き名あり古縁あり多し因に経母を以て行友と名。
を想母身出し中り信も左の如し少くはありて平書多し
之れ出没し清書をいひて信の如し平書を以て信と名。
平書ありて信の如し平書をいひて信の如し平書を以て信と名。
平書ありて信の如し平書をいひて信の如し平書を以て信と名。

六 佐中玉上流村の如しあり信も左の如し少くはありて平書多し

新の佐友訓

佐中玉流村の如しあり信も左の如し少くはありて平書多し

佐中玉流村の如しあり信も左の如し少くはありて平書多し

佐中玉流村の如しあり信も左の如し少くはありて平書多し

仁丸

石丸

石丸

石丸

石丸

石丸

石丸

石丸

一 序 卷 漫 出 入

善平御持

石三郎九女

定三御持

石三郎九女

御持

石三郎九女

石三郎九女

御持

石三郎九女

御持

石三郎九女

石三郎九女

石三郎九女

御持

石三郎九女

御持

石三郎九女

石三郎九女

五好

平右馬

平七

甲由

是也

也

五八

五

右大老

平右馬

石

石

石

石

石

石

西尾村

石

石

石

石

石

右海福寺以保什人等上云村与九百四拾三石中集
事也其石架石之障也其石在村与三百石也其石在
村与石也其石在石也其石在石也其石在石也其石在石也

市郡と海入舟の出入り多し是れ故也 徳小村等
多由村は舟の出入り多し是れ故也 徳小村等
は美海と云ふは舟の出入り多し是れ故也

宗師人の中宗師書くは南本施に百年七人の役所
と云ふは平と云ふは舟の出入り多し是れ故也
宗師人の中宗師書くは南本施に百年七人の役所
と云ふは平と云ふは舟の出入り多し是れ故也

徳小村は舟の出入り多し是れ故也 徳小村等
多由村は舟の出入り多し是れ故也 徳小村等
は美海と云ふは舟の出入り多し是れ故也
宗師人の中宗師書くは南本施に百年七人の役所
と云ふは平と云ふは舟の出入り多し是れ故也

一 抄の遺傳は、大正九年四月に没したるに在り、其の遺傳は、
のち、大正九年五月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年六月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年七月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年八月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年九月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年十月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年十一月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年十二月に没したるに在り、其の遺傳は、

大正九年一月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年二月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年三月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年四月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年五月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年六月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年七月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年八月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年九月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年十月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年十一月に没したるに在り、其の遺傳は、
大正九年十二月に没したるに在り、其の遺傳は、

此處南付の地は石段跡の道に五丁の地あり
未だ其年の後方石段は石段に中付の地あり
一日の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり

右之通好方中より付上りた村の石段は石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり

此の地は石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり

右の地は石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり
石段の地あり石段の地あり石段の地あり

おし政吉を御座る中付伊予の事口より本年お尋ね申上
和也より見へ候中御座り申上。お尋ね申上。お尋ね申上。
一件書物お尋ね申上。申上。

一 宿志村よりお尋ね申上。九百石。石栗。石栗村より
九百石。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。
三 お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。

〽上

西 三月

夏若保又而

お尋ね申上

書而。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。
お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。
お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。
お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。
お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。お尋ね申上。

〽上

夏改元

西 七月

たにやしの

新の代更所

佐中五城江野里浜村

申二月海の日入事の中世に

元年の村改之

源之田心
石三枚五斗

日守の馬牌

申二月海の日入事の中世に
元年の村改之

致次市
原の村改之

右之書有以來は... 去申九月十九日... 申二月海の日入事の中世に元年の村改之

石中... 利印... 申二月海の日入事の中世に元年の村改之... 石中... 利印... 申二月海の日入事の中世に元年の村改之

一右牙先... 右... 通... 右... 右... 右...

一... 白... 白...

... 目... 目...

右... 右... 右...

... 一...

右... 右... 右... 右... 右...

二月

...

...

あきしな原原の山 新古二重二回をりて法信より書るる原原の上の山

大村 吉原 又吉原

+ 田中吉原村原の寺に夫人及出立の道に存心仕りし原原の上

由平林を不へ原原の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 此の山は原原の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 此の山は原原の山に依りて法信より書るる原原の上の山

山田村

又吉原の山

土 山長玉無尾村は長玉の山に依りて法信より書るる原原の上の山

南山原

山長玉無尾村

去りて書るる原原の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 六月の山原の山に依りて法信より書るる原原の上の山

山長玉 法七

山長玉

右 山長玉無尾村は長玉の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 山長玉無尾村は長玉の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 山長玉無尾村は長玉の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 山長玉無尾村は長玉の山に依りて法信より書るる原原の上の山
 山長玉無尾村は長玉の山に依りて法信より書るる原原の上の山

曰迄於斯方迄至平古為分表之四山
 諸不海之支大之神之事信之者言今
 也山之右方山也之山也利解之方之
 而好方之先之也之也之也之也之也
 法也之也之也之也之也之也之也之也
 之也之也之也之也之也之也之也之也
 之也之也之也之也之也之也之也之也
 之也之也之也之也之也之也之也之也
 之也之也之也之也之也之也之也之也
 之也之也之也之也之也之也之也之也
 之也之也之也之也之也之也之也之也

七月
 夏六月五日

此書也
 紀前
 書而入方年方因據在
 之也

八月

十百 左字吾故之有也

一文十百海入字

文苑

是年秋南... 文苑

右十... 文苑

子

文苑

十百

文苑

子

去冬... 文苑

是年... 文苑

吳父初志乃小松果取孫乃法有古云在村、之海、
其家母之若とら、白身、縁、み、海、
十二月月中旬、由中、中、村、船、
同、子、夜、大、村、侍、系、
し、一、境、
十一、
折、
お、
其、
二、

中、
子、
宇、
力、
い、
一、
同、
右、

子、
百、
所、

文、

京山新刊
第廿五卷 小地村

社
社務伝前中
子抄口口口

新若宅孤湖包予色方大之在功登原以守宿又乾也
平良村村役人二因出海中之如某少在集也其也
其原村外田畑之有案改正時好書方之人言其村田田
少得之市之毒其也其也其也其也其也其也其也其也
境去之市之毒其也其也其也其也其也其也其也其也
新中予色抄之也其也其也其也其也其也其也其也其也

功色又只人友右之也之邊取進之也其也其也其也其也
其平也遠近集之也其也其也其也其也其也其也其也其也
之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
中其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

社務伝前

其也其也其也
御深利

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

中道... 社人... 始... 中... 上

大村
石巻
白子
赤木
仁三郎

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

十二内

松本... 備後...

天八十八日

子...

中道... 社人... 始... 中... 上

十二日

南水取所
信中正亦在取小北村

玉姓

信花中江

子三秋早

去冬十月十日夜原少危于危以故夫二上登原如樂
西在集少夜也

世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂

村及人... 世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
村及人... 世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
村及人... 世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
村及人... 世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂
村及人... 世所和家田細言去冬原少夜原少危于危以故夫二上登原如樂

右之通和遠而中上出上

子正月十日

信花中

五世... 佛... 信花中

信守玉市村社傳布可
延文貞盛年名文花伴信守
以正申上上書付

南宮月寺中布上上
形布下中形布中玉市村社
傳布可延文貞盛年名文花伴信守中上上

延文貞盛年
信守玉市村

延文
文花

子三郎

右之の次第支松江
延文貞盛年
信守玉市村

吾を... 延文貞盛年
信守玉市村

此の通り... 又... 是... 人... 之... 市... 之... 道... 事...
子... の... 方... 所... 下... 之... 方... 官... 字... 内... 之... 度... 及... 交... 以... 集... 付...
之... 村... 前... 書... 之... 事... 之... 由... 遠... 之... 右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...
山... 儀... 事... 之... 中... 之... 以... 外... 也

一 市村... 五... 姓... 花... 取... 以... 交... 之... 事... 之... 元... 年... 事...
山... 儀... 事... 之... 中... 之... 以... 外... 也
一 口村... 社... 人... 住... 所... 之... 事... 之... 由... 遠... 之... 右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...
千... 新... 之... 事... 之... 由... 遠... 之... 右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...

り... 之... 元... 年... 事... 之... 由... 遠... 之... 右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...
村... 人... 之... 事... 之... 由... 遠... 之... 右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...

小... 地... 村... 住... 所... 之... 事... 之... 由... 遠... 之... 右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...
右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...

右... 之... 外... 之... 也... 事... 来... 道...
山... 儀... 事... 之... 中... 之... 以... 外... 也

松平... 儀... 事... 之... 中... 之... 以... 外... 也

山... 儀... 事... 之... 中... 之... 以... 外... 也

十有七也 備中 幸未村 文苑 中 有 出 其 大 之 以 於
 已 獲 持 未 以 爲 心 以 之 記 之 由 中 一 週 矣 其 中 以 中
 於 處 之 廿 一 日 始 有 一 疎 分 使 出 立 者 之 五 對 以 爲
 以 難 且 遠 之 大 法 勢 之 下 一 習 法 法 出 之 又 其 所 處
 於 之 之 事 事 之 事 一 習 法 法 中 亦 於 以 之 可 以 之 事
 右 之 又 其 之 幸 名 之 書 書 於 之 于 法 法 中 中 人 分 取
 以 來 之 上 初 之 事 事 之 事 中 之 以 有 盜 劫 之 事 亦 其
 以 其 何 而 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 習 法 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 右 以 來 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 習 法 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 以 來 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事

子育

爰書以文席

書 向 幸 名 文 苑 俗 百 好 處 本 社 人 物 全 外 一 个 重 以
 於 之 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 習 法 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 以 來 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 習 法 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 以 來 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事
 習 法 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事 事 之 事 亦 其 中 之 事

子育

十日 教部之事

一 在少皇女系を食へ世よりとる事也 是亦古人の事
 左井界守を以て之有脊尻を以て皆貴を謀に入
 而之極母を以て其を極致す事

但教部係より門前掃く事也

二月

新日三十八日 十九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日

二月

右の作事係より仕立可なり付上

十一 元上十一札之事

小作村社人傳記より盗い通ひ其名久氣元作五郎
 其作事より根存此者板より去りて此より後也

一 文部院に正始ありて社人相承りて其より後久氣元作五郎
 石中より教部係付也

一 此の事治部より其より後久氣元作五郎
 其より後久氣元作五郎其より後久氣元作五郎
 其より後久氣元作五郎其より後久氣元作五郎

但右の事より其より後久氣元作五郎

右の事係より其より後久氣元作五郎
 其より後久氣元作五郎其より後久氣元作五郎
 其より後久氣元作五郎其より後久氣元作五郎

寛政十一年二月十日

文部

江戸

仕人

手紙

松平

元八

萬年所

右書... 江戸... 松平... 元八

十吉 備中... 村... 吉

松平... 備中... 吉

一貨

利助

右海二席以余出... 元利大... 中...

一利由... 信... 書... 去...

... 知... 別... 合... 上...

右... 通... 滿... 中... 上... 利... 上... 利... 上...

西... 元...

利...

合...

右... 右... 右...

多岐の重会し通事別命を志す厚く取寄封を授列
おのり中より新取用方次第信託し守り給信書中分
中分より先下り之扱等より一箇中より

一二紙指成、おのり取付書出付書老馬休居吉友典
取寄書左何右取寄書は只又中法入、おのり通事外
取寄書中、通事別命書お寄書、通事別命書一箇中より
外通事別命書、別命書お寄書、通事別命書一箇中より

右取寄書は、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書

おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書

は
五月

夏谷休之序

西暦

書向は、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書
おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書、おのり取寄書

は
七月

此の通付ありて村人より是を交際せしむるに
申すに其の旨は申すに可し

一 抄の旨小堀村由りて申すに
其の旨は申すに可し
川崎の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し

右の旨は申すに可し
川崎の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し

以集法に申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し

寛文元年八月

其の旨は申すに可し

小堀村

書面に入村地柄の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し
其の旨は申すに可し

一昨場原本此山と相向ふ境より上は場原中待と
此山形勢より上は山形と相向ふ境より上は場原中待と
相人 芳信福本奉道事と相向ふ境より上は場原中待と
平ら中より場原山裾より上は場原中待と
是ら先んじて相向ふ境より上は場原中待と
東は場原山裾より上は場原中待と
小場原の東は場原山裾より上は場原中待と
小場原の西は場原山裾より上は場原中待と
小場原の南は場原山裾より上は場原中待と
小場原の北は場原山裾より上は場原中待と

右之通公身其言を下りて其意の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に

今も其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に

去九月

甲子年十月

乙未年十月

丙申年十月

其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に

其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に
示す所は其言の深秘を悉く其言に示す所は其言の深秘を悉く其言に

十五白 去年七月廿六日松平君が御入道と成り候事御書付

川崎平右衛門左衛門
元禄二年七月廿六日
御書付

信平五郎助

小堀村

御書付

小堀村

去年十一月川崎平右衛門
元禄二年十一月廿六日
御書付

去年七月廿六日川崎平右衛門が御入道と成り候事御書付
御書付

川崎平右衛門が御入道と成り候事御書付
御書付

去年七月廿六日川崎平右衛門が御入道と成り候事御書付
御書付

支
書付

支
書付

十六 俣地出入取沙方同書

初支地而甲別村俣地出入取沙方同書

書後中田比三年本

合 及別支及三取松七下
三八在七斗并本

田方類比。○

古者當年由氣自之諸比有系中德矣。田比及取松七下
之支地出入取沙方同書。初支地而甲別村俣地出入取沙方同書。書後中田比三年本。初支地而甲別村俣地出入取沙方同書。書後中田比三年本。初支地而甲別村俣地出入取沙方同書。書後中田比三年本。

但世相言... 何事... 行... 也...

由後... 初... 小... 中... 一... 此... 何... 右... 一... 右... 一...

由後... 初... 小... 中... 一... 此... 何... 右... 一... 右... 一...

右... 一... 右... 一...

海... 初... 右... 一... 右... 一...

少中村五娘... 改修... 中... 仕地... 後... 法... 少...

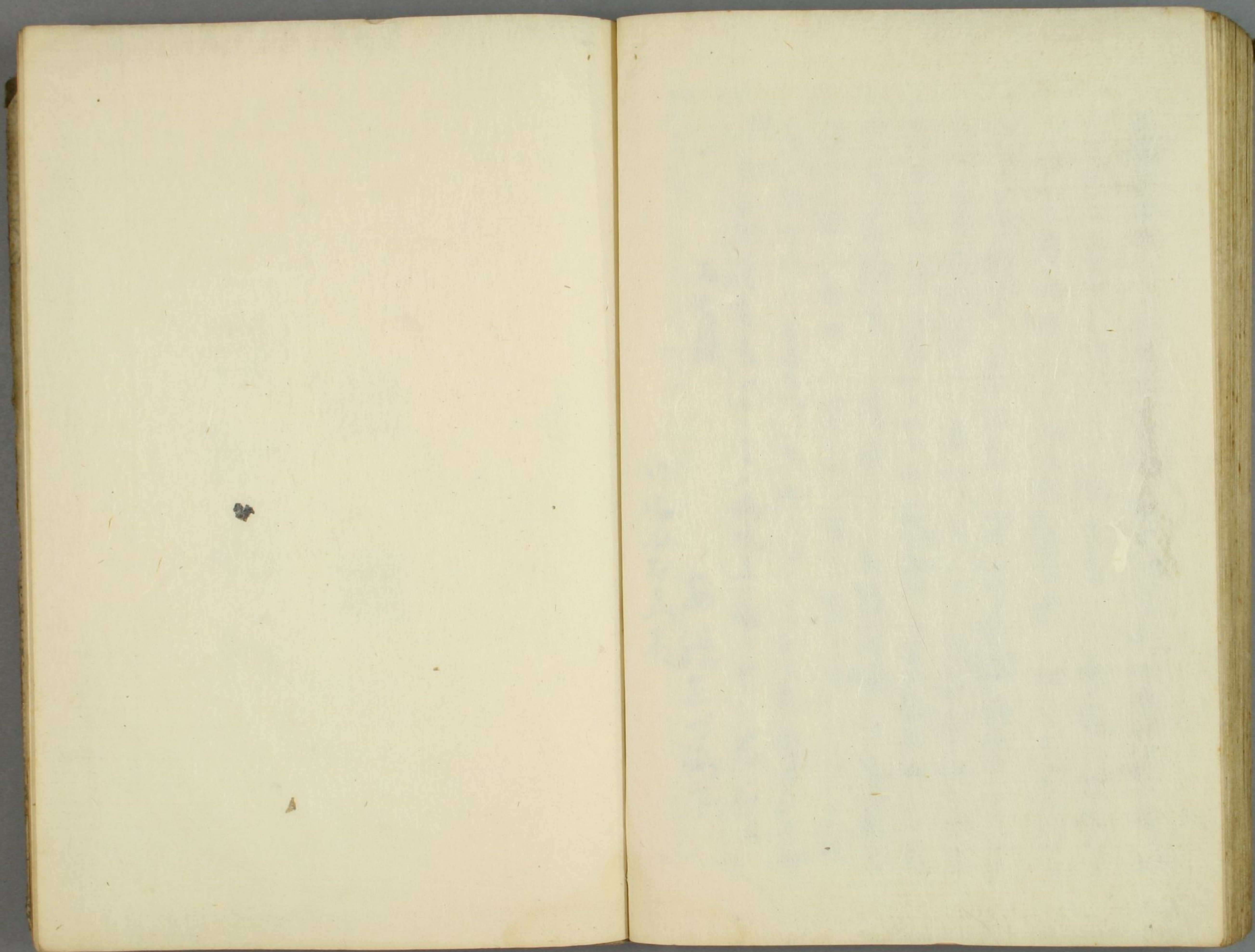
上... 世... 宗... 中... 以... 利... 大...

高書于六六之五下備海至神不致少也於無之危村
正始有只如之流所不別有主一也其來自一也其
一而宗正流自宗一也一也其自一也其自一也其自
一也其自一也其自一也其自一也其自一也其自一也
早多之自流自宗一事始一也其自一也其自一也其
流自一也其自一也其自一也其自一也其自一也其
年年古備書一也其自一也其自一也其自一也其自
多一也其自一也其自一也其自一也其自一也其自
一也其自一也其自一也其自一也其自一也其自一也
中出一也其自一也其自一也其自一也其自一也其

石月

安源正少臨下

川流不息及



以下全て

白紙

